



青森農研フラッシュ

(地独) 青森県産業技術センター・農林部門

研究成果

夏秋ミニトマトの「摘花房」による夏の収穫ピークの軽減 ～夏に楽しんで、秋の収量アップ～

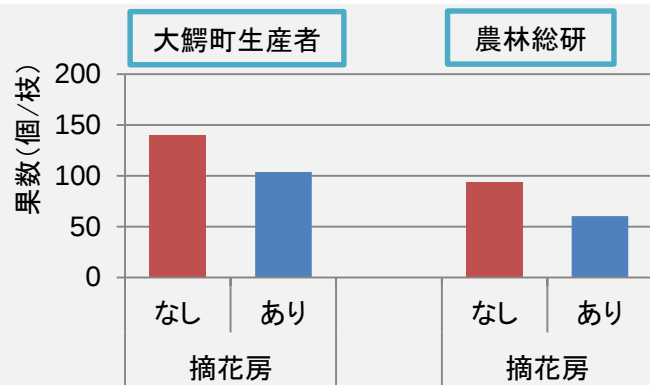
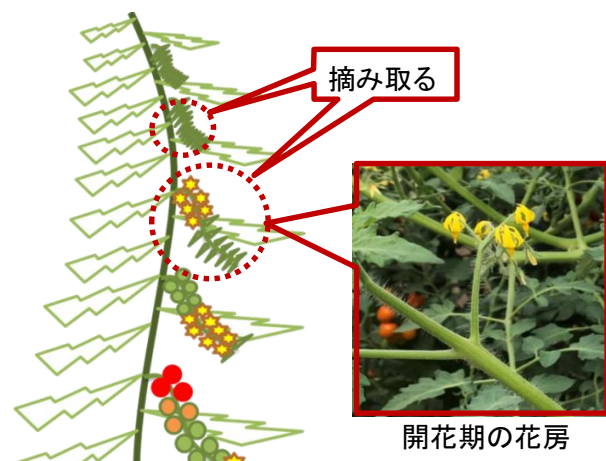
農林総合研究所

夏秋ミニトマトは、栽培が簡単で収益性が高いことから、生産者数と栽培面積が増加しています。一方で、収穫作業が夏の短い期間に集中することから、夏の管理作業が十分にできず、秋の収量が少なくなる事例が見られています。

そこで、農林総合研究所では中南地域県民局と協力して、花房を摘み取る「摘花房」の試験に取り組みました。その結果、摘花房により夏に収穫するミニトマトの数を少なくでき、秋の収量が増加する事がわかりました。

「摘花房」の方法と、夏の収穫ピークの軽減効果

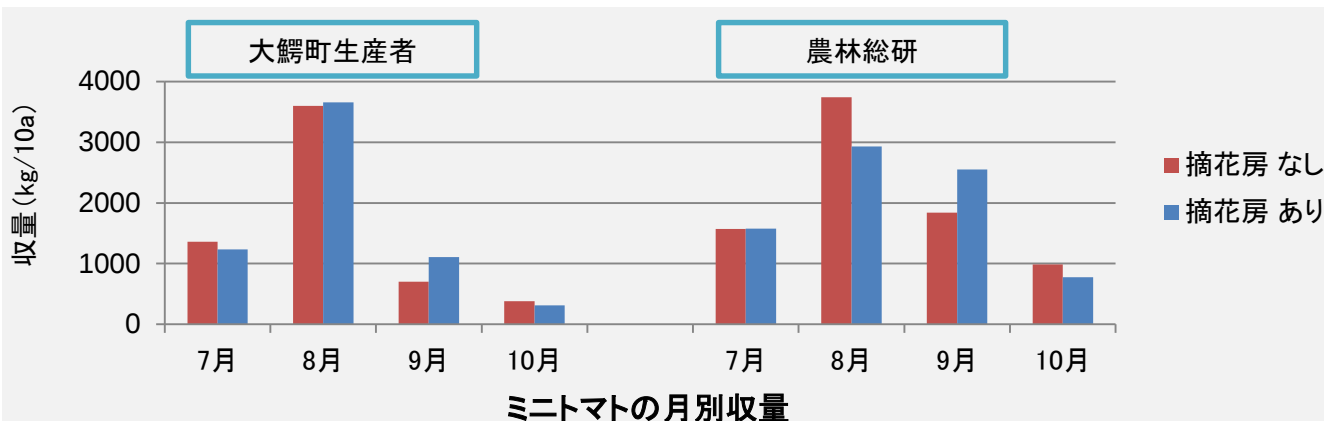
- ◆「摘花房」は、6月20日頃に開花期の花房とその1段上の花房を2段連続で全て摘み取ります。
- ◆「摘花房」すると、収穫ピークの7月下旬～8月中旬の果数が26～36%少なくなります。



ミニトマトの果数(7月下旬～8月中旬収穫)

販売単価が高い秋の収量アップ

- ◆「摘花房」すると、販売単価が高い9月～10月にかけての収量が18～30%多くなります
- ◆「摘花房」しても、トータルの収量や販売金額には大きな差がありません



お問い合わせ

農林総合研究所 施設園芸部 (TEL 0172-52-2510)